

第1回  
我孫子市まち・ひと・しごと創生  
有識者会議  
全体会

令和2年9月24日（木）

我孫子市企画課

(全体会)

○林委員長 次第に従いまして、本日の令和2年度第1回の我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議の議題を進行させていただきたいというふうに思います。

まず、議題の1でございますけれども、次第にありますとおり、令和元年度の地方創生推進交付金の活用における効果検証についてという議題でございます。

資料につきまして、早速ですが、事務局のほうからご説明をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、お手元の資料、A3の右上に資料1と書かれております地方創生推進交付金の活用における効果検証シートをご覧ください。

地方創生推進交付金につきましては、平成29年度から3年間の計画を立てて、国から交付金をもらっているものです。今回3年目の最後、令和元年度の取組について、事業の効果検証を行っていただければと思います。

交付金の内容等は1ページ目に書いてございますが、こちらにつきましては割愛させていただきます。

2ページ目をご覧ください。

我孫子市では、地方創生推進交付金として、手賀沼を核とした水辺のにぎわい創出事業をテーマに3カ年の計画で国へ申請しております。

2ページ目の一番上が、交付対象事業の重要業績評価指数（KPI）と書かれておりまして、この計画を進めるに当たって、KPI、目標を3つ設けております。

KPI1は、手賀沼沿いの交流空間となる施設（手賀沼親水広場、農業拠点施設）である水の館の入場者数です。KPI2は、孫子駅前インフォメーションセンター「アビシルベ」の来訪者数です。KPI3は、スポーツボランティア養成講座の受講者数です。これらを3年間でどれだけ各年度で増加させるかという増加分の数字が目標となっております。

その表の中の少し右側、真ん中の部分に実績を記載しています。令和元年度の実績が、KPI1の水の館の入場者数が46万6,705人、そして、KPI2、アビシルベの来訪者数が4万764人、そして、KPI3、スポーツボランティア養成講座受講者数は19人となっております。

この実績を伴いまして、その表の中の一番右側の列に令和元年度増加分ということになります。こちらが令和元年度取り組んだ結果の目標の指標になります。

KPI1につきましては、目標は7,000人増であったのですが、残念ながら、実績としては前年度と比べてマイナス846人ということで、達成状況は未達成になっています。

K P I 2につきましては、目標500人に対して実績は536人ということで、達成しております。最後、K P I 3につきましては、目標34人増に対して、実質は13人増にとどまったということで、こちらも未達成になっております。

続いて、その下の表です。

結果的にK P I の1と3が未達成になっておりますので、未達成の理由、そして、それを踏まえてどういう事業を見直していくかというのをそれぞれ所管課のほうで挙げてきておりますので、読み上げたいと思います。

まず、K P I 1未達成の理由につきましては、手賀沼課のほうからが、4月から7月までの入場者数が減少している。原因の一つとしては、じゃぶじゃぶ池改修工事期間だったため、親水広場の一部が閉鎖されていたことによると思われる。

ここで、併せて見ていただきたいのは、A 4、一枚もので、平成29年から令和元年度水の館入場者数という資料です。こちらで見ますと、確かに令和元年度の4月から7月についてが、増減数の下がマイナスになっております。所管課としましては、じゃぶじゃぶ池改修の関連で、その周りの緑地の部分も歩けないようになっていたので、そこが影響しているのではないかという考えです。

続きまして、農政課です。農業拠点施設が6月以降に月1回の休業日を設けたことや秋に2度の台風と大雨で客足が伸びなかったためということできております。

昨年の9月と10月に台風と大雨がありまして、先ほどの水の館入館者数を見ていただくと、9月が前年度と比べてマイナス1,211人、10月がマイナス6,588人ということで、これが全てかといわれると、なかなか難しいとは思いますが、主な理由としてはこうなんじゃないかということで、農政課として挙げてきております。

そして、K P I 3の未達成の理由です。

文化・スポーツ課からです。4月に実施したことから募集期間が短く、周知が十分にできなかったことや、スポーツボランティア養成講座終了後のボランティアとして参加できるイベント等が少なかったことが考えられるとなっております。

それらを踏まえてどう見直していくかというのが下の行になります。

まず、K P I 1、手賀沼課。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりじゃぶじゃぶ池水遊び期間の利用中止や各種イベント等の中止のため、入場者数は厳しい状況が続くことが見込まれる。今後は、この感染症の状況等を注視しながら、予防対策を徹底したイベント、環境学習の実施や親水広

場にキッチンカーの出店を誘導するなど、施設の利用促進につながる事業を通してできる限りの交流人口拡大策を図っていく。

続いて、農政課です。

登録農家に働きかけ、農産物の増量と品ぞろえの充実を図るとともに、ホームページの内容の質や更新頻度を高め、ウェブ上でのPRを強化していく。

続いて、KPI3です。文化・スポーツ課です。

市主催スポーツイベント等でボランティアが必要な場合は案内等をするが、事業としては、令和元年度をもって終了ということになっております。

以上が未達成と見直しの内容になります。

その下からは、では、実際令和元年度、どういう取組をしてきたかというものを表にしております。

まず、1番の地域資源を活用したスポーツ推進事業では、①東京オリンピック・パラリンピック推進事業ということで、文化・スポーツ課のほうで行っております。概要については、市内にある川村学園女子大学と笹川スポーツ財団の協力を得て、東京2020オリンピック・パラリンピックやスポーツ大会などにボランティアとして関わってもらえるよう、スポーツボランティア養成講座を実施するというので、事業費6万円に対して、国からは半額の2分の1、3万円の交付を受けております。

その右、取組内容でございますが、こちらについては、この後の評価の際に確認していただきながら、一番右の事業の評価をしていただければと思います。

続いて、3ページ目です。

大きい2番として、手賀沼沿いウォーターサイド整備事業ということで、幾つか挙げております。

まず、①番、手賀沼沿いエリアの活用・整備。こちらの概要です。手賀沼観光拠点の手賀沼親水広場について、小さい子供のいる家族連れに人気の高いじゃぶじゃぶ池のリニューアルをはじめ、リピーターを増やすための取組を引き続き続けていくということで、令和元年度は、従来からやっているプラネタリウムの管理運営委託に加えまして、じゃぶじゃぶ池工事が完了した後の清掃業務委託や水質検査、消耗品や燃料費もろもろ、じゃぶじゃぶ池を遊ぶ場にするための取組として、国から交付を受けております。

下のほうの表で、②番、我孫子産農産物の品質向上のための生産履歴システムの普及・促進。概要が、手賀沼親水広場の農産物直売所などへ出荷するエコ農産物の認証手続や農薬、肥料の

適正使用を支援するため、導入した生産履歴管理の普及・促進を図るということで、こちらについては、昨年度もう機械を導入しているんですが、引き続き使っているということで、それに対しての保守や年間利用料について国から交付を受けております。

続いて、4ページ目です。

大きい3番、我孫子の魅力発掘・発信・シティーセールス推進事業、①番、情報発信の推進につきましては、シティーセールスを主に行っております我孫子の魅力発信室の取組を入れております。

概要です。テレビ、ラジオ、インターネットなどを効果的に組み合わせたメディアミックスの手法により、情報発信を推進するというので、こちらにも引き続きの事業が多いのですが、地上波テレビでのPR業務であったり、AMラジオの番組、また、移住促進PRの冊子をつくったりなど、様々な事業を国へ申請して交付を受けております。

最後、5ページ目になります。

大きい4番、移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業、こちらは、主に企業立地推進課が行っている取組です。

①起業個別相談会の実施。起業を目指す人を対象に、起業前の時期に専門的な支援をするため、産業振興センターや金融機関、商工会から相談員を派遣してもらい、相談会を実施する。

②番、女性支援フォーラムの実施。起業をしている女性、起業を目指す女性を対象に、女性起業家の講演や、人脈拡大や情報交換の場を設けた女性支援フォーラムを実施する。こちら2つにつきましては、講師報償費の申請をしております、それぞれ半分の金額が国から交付を受けております。

駆け足になってしまいましたが、今は令和元年度の取組ということで説明させていただきました。

これより分科会形式をとらせていただきまして、効果検証に進んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○林委員長 ありがとうございました。

これから分科会形式で進めるということで、各分科会に分かれまして、資料1についての検討をまずは行っていきたいというふうに思います。